

幼稚園

平成31年度(2019年度)

# 教育研究員研究報告書

幼稚園

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究構想図	2
III	研究内容	2
	1 幼児が「前向きな見通し」をもつことと幼児が自分で考えて行動することとの関連性	
	2 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程における保育者の援助	
IV	検証保育	9
	1 2年保育 4歳児 9月下旬	
	2 2・3年保育 5歳児 10月下旬	
V	研究の成果	16
	1 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程の可視化	
	2 幼児が「前向きな見通し」をもつための二段階の保育者の援助	
VI	今後の課題	16

## 研究主題

# 自分で考えて行動する幼児を育てる ～幼児が「前向きな見通し」をもつ過程に着目して～

### I 研究主題設定の理由

平成 30 年度に全面実施となった幼稚園教育要領（以下、「幼稚園教育要領」と表記。）においては、幼児期の教育は「幼児期の特性を踏まえ、環境を通して行うものであることを基本とする」<sup>1</sup>とされ、「資質・能力は、第二章に示すねらい及び内容に基づく活動全体によって育むものである」<sup>2</sup>と明記されているように、園生活全体を通して行われるものとされている。また、「幼児の発達に即して主体的・対話的で深い学びが実現するようにするとともに、心を動かされる体験が次の活動を生み出すことを考慮し、一つ一つの体験が相互に結び付き、幼稚園生活が充実するようにすること」<sup>3</sup>とあるように、幼児が自発的な遊びの中で主体的・対話的で深い学びを通して様々な力を育てていくことができるようにすることが重要と明記されている。

さらに、幼稚園教育要領解説には、「主体的に関わるとは、幼児なりに思いや願いをもち続け、関わっていくことである」<sup>4</sup>とあり、幼児が自分の思いや願いの実現に向けて自分なりに考えて行動することが重要であることが示されている。そして、「幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること」<sup>5</sup>とあるように、保育者が幼児の心の動きに寄り添い、幼児が困難に感じる場面（以下、「困難な場面」と表記。）に出会ってもそれを乗り越えて、次の活動へ向かっていくための「前向きな見通し」をもつように援助することが大切である。

それらを踏まえ、日々の保育の中で「主体的に行動する幼児を育てたい」、「幼児の遊びを深めていきたい」と保育者が考えている場面の記録を持ち寄った。すると、「やりたいことがあってもうまくいかない諦めたり遊びをやめたりする」、「自信のなさから素直に思いを表せない」、「自分なりに考えて遊びを進める姿が少ない」「自分から行動せずに保育者を頼ることが多い」など、幼児が自分で考えて行動することに課題があることが共通に見られた。

そこで、研究主題を「自分で考えて行動する幼児を育てる～幼児が『前向きな見通し』をもつ過程に着目して～」と設定し、保育者の援助の在り方を探っていくことにした。

<sup>1</sup> 幼稚園教育要領 第 1 章 第 1 節 幼稚園教育の基本より抜粋

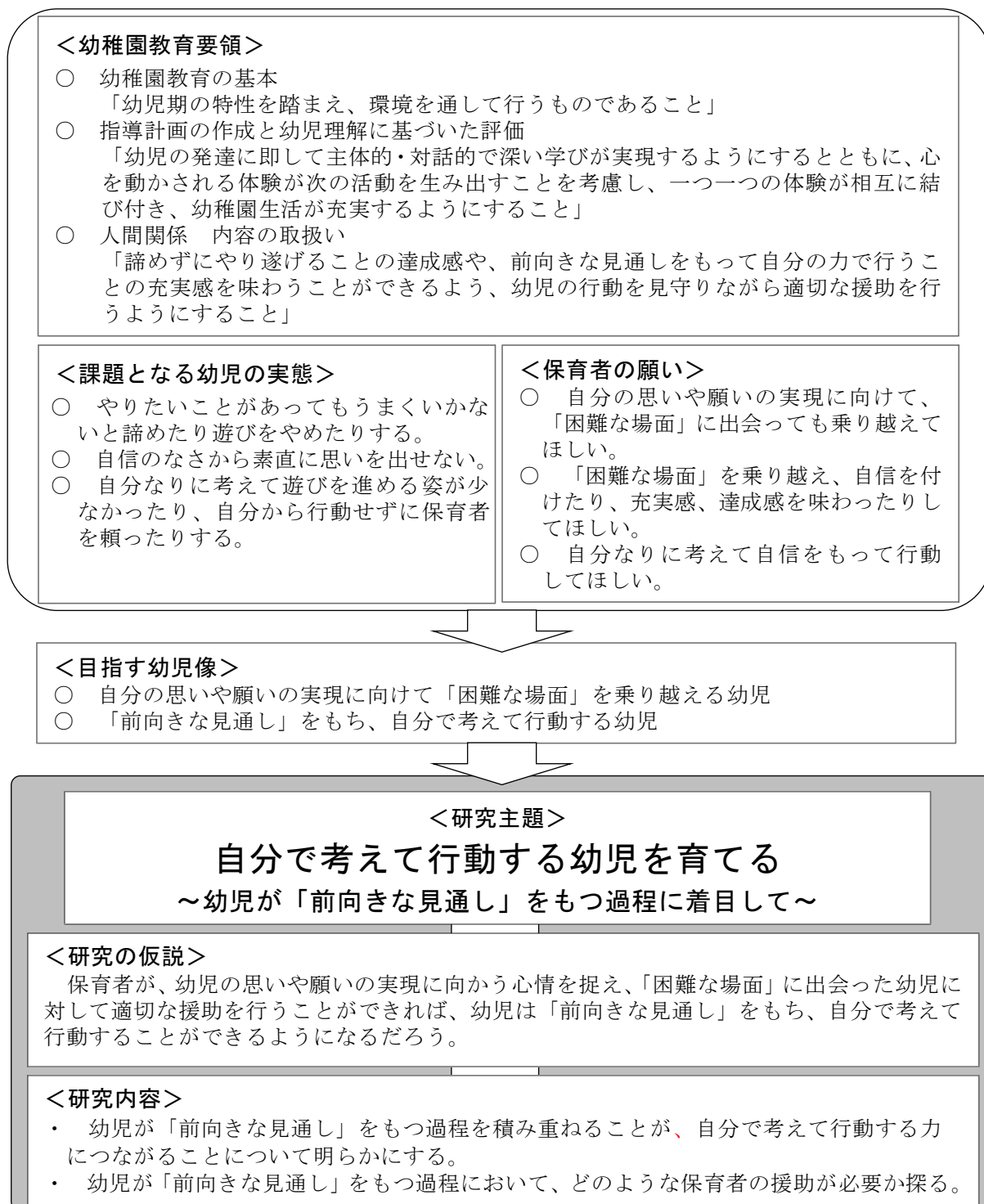
<sup>2</sup> 幼稚園教育要領 第 1 章 第 2 節 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 2 より抜粋

<sup>3</sup> 幼稚園教育要領 第 1 章 第 4 節 指導計画の作成と幼児理解に基づいた評価 3 (2)より抜粋

<sup>4</sup> 幼稚園教育要領解説 第 1 章 第 1 節 4 計画的な環境の構成より抜粋

<sup>5</sup> 幼稚園教育要領 第 2 章 人間関係 3 内容の取扱い (1)より抜粋

## II 研究構想図



## III 研究内容

### 1 幼児が「前向きな見通し」をもつことと幼児が自分で考えて行動することとの関連性

#### (1) 「困難な場面」の定義

幼稚園教育要領解説においては、幼児が困難と感じる場面について、「挫折感、葛藤」、「失敗」、「いざこざなどうまくいかないこと」、「気持ちのぶつかり合い」、「難しいこと」、

「感情的な行き違いや自他の欲求の対立」、「衝突」などの言葉で表されている。そこで、3歳児から5歳児までの各年齢における「困難な場面」の事例を持ち寄り、幼児が経験している内容について検討したところ、次のように分類できることが分かった。

① **自分自身と向き合うことにおける困難**

「挫折感、葛藤」「失敗」「難しいこと」など

- ・ 自分で感情をコントロールし友達を噛まずにいられた事例（3歳児）
- ・ 砂に触れることができるようになった事例（3歳児）
- ・ 自分から好きな遊びを見付けて動き出した事例（4歳児）
- ・ 最初は拒んでいた一斉活動に参加するようになった事例（4歳児）
- ・ OHPを使った影絵遊びで自分のイメージを実現した事例（5歳児）
- ・ お店屋さんごっこの係で自分なりの案内方法に自信をもった事例（5歳児）

② **他者との関わりにおける困難**

「いざこざ」「気持ちのぶつかり合い」「感情的な行き違いや自他の欲求の対立」「衝突」など

- ・ 友達の思いを知り、我慢や譲ることを覚えた事例（3歳児）
- ・ 友達と一つのことを共有することを受け入れ、遊びを楽しめた事例（4歳児）
- ・ 友達の思いに気付き、謝った事例（5歳児）

本研究では、自分で考えて行動する幼児を育てるための保育者の援助の在り方を探るため、①の自分自身と向き合うことにおける困難に焦点を絞り、研究を進めていくことにした。

そして、上記の事例検討をとおして、本研究における「困難な場面」を次のように定義した。

**「困難な場面」**

幼児が自分の思いや願いをもって遊びや活動に取り組む中で、どうすればよいのか分からずに困ったり、迷ったりしながら自分自身と向き合う場面

(2) 「前向きな見通し」の定義

幼稚園教育要領においては、「幼児が自ら周囲に働き掛けることにより多様な感情を体験し、試行錯誤しながら諦めずにやり遂げることの達成感や、前向きな見通しをもって自分の力で行うことの充実感を味わうことができるよう、幼児の行動を見守りながら適切な援助を行うようにすること」<sup>6</sup>と記されている。一般的に「前向きな見通し」とは取組の意欲、「困難な場面」を乗り越えるための予測と捉えられている。

しかし、事例検討をする中で、「困難な場面」を乗り越えることによって味わった楽しさや達成感、自信なども、その後の展開や自分自身の力で成し遂げたことによる期待感、その先の可能性をもつことにつながると考えた。

<sup>6</sup> 幼稚園教育要領 第2章 人間関係 3 (1)より抜粋

そこで、本研究においては「前向きな見通し」を「困難な場面」を乗り越えるための見通しとしてだけでなく、「困難な場面」を乗り越えたその後の展開の意欲や期待感や可能性をもつことにつながるものとして捉えることとし、次のように定義した。

「前向きな見通し」  
 幼児が、自ら物事にに関わり、その後の展開や自分自身の変容に期待感をもったり可能性を感じたりすること

(3) 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程を積み重ねることにより、自分で考えて行動する力につながるについて

以上の定義を基に、事例検討をしたところ、幼児が「前向きな見通し」をもつ過程において幼児が経験している内容を①、②の2パターンに分類・分析することができた。

2パターンの幼児の経験する過程についての詳細は、以下のとおりである。

- ①： 活動のきっかけとなる思いや願いをもつが、取り組むまでに「困難な場面」に出会う場合  
 ②： 活動のきっかけとなる思いや願いをもち、自分なりに取り組む中で「困難な場面」に出会う場合

そして、保育者は幼児がさらなる思いや願いをもつための援助を行い、幼児が「前向きな見通し」をもつ過程の経験を積み重ねられるようにすることで、幼児が自分で考えて行動する力の育成につながると考え、図1のイメージ図に示した。

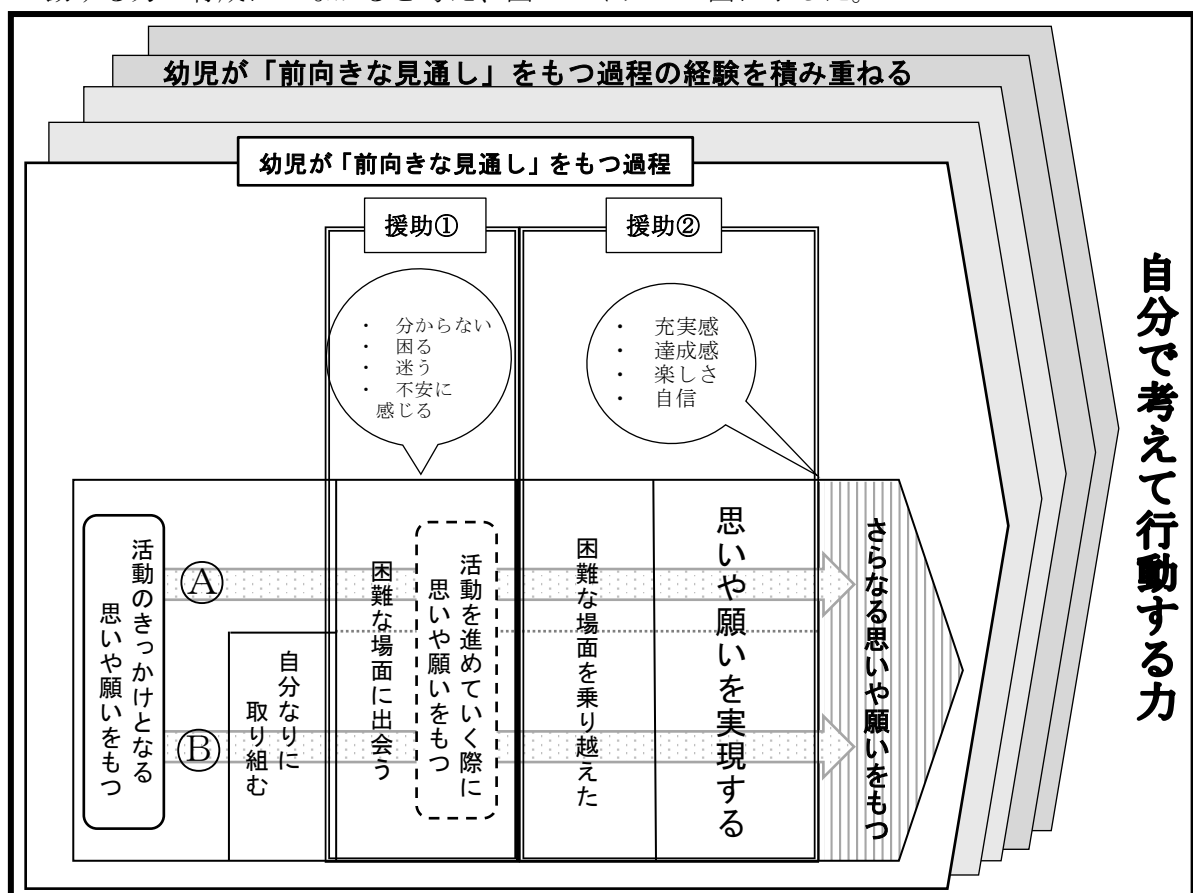


図1 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程を積み重ねることが自分で考えて行動する力につながることのイメージ図

このように幼児が「前向きな見通し」をもつ過程の経験を積み重ね、充実感や達成感、楽しさを繰り返し味わったり、自信をもったりすると、さらなる活動に対して自分で考えて行動するようになって考えた。

## 2 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程における保育者の援助

図1の幼児が「前向きな見通し」をもつ過程で保育者が行う援助①、援助②については以下のとおりである。

援助①： 幼児が思いや願いの実現に向かって取り組む中で、「困難な場面」に出会ったときの幼児の姿や心情に応じて、保育者が行う援助
援助②： 幼児が「困難な場面」を乗り越えて、思いや願いを実現したことによる充実感、達成感、楽しさ、自信を味わい、さらなる思いや願いをもてるようにするために、保育者が行う援助

### (1) 事例研究

ア 3年保育 3歳児 6月下旬 「砂場で遊びたい」

< A児の実態 >

- ・ 様々な活動を経験する際に自分なりのこだわりが強く、初めての事柄に対して不安になったり、保育者に頼ったりする姿が見られる。
- ・ 汚れることへの抵抗があり、他児が砂場で遊んでいる様子を見ていることはあっても、砂に触れることはしなかった。
- ・ 6月下旬、A児はシャボン玉遊びを楽しんでいたが、シャボン玉のストローを落とし、砂が付いてしまい、困った。しかし、保育者の援助を受けて水道でストローを洗い、「自分でできたよ。」と嬉しそうにした。

幼児及び保育者の姿	<input type="checkbox"/> 活動のきっかけとなる思いや願 <input type="checkbox"/> 活動を進めていく際の思いや願	<input type="radio"/> 保育者の思いや願 <input type="checkbox"/> 援助
<p>保育者が他児と一緒に砂場で水を使って川や山を作ったりしていると、A児がやって来る。しゃがんでいる保育者に寄り掛かるようにして立ち、保育者や他児が遊ぶ様子を見ている。【①】</p> <p>「Aくん、一緒にお山作ろうよ。」と保育者が誘うと、「汚れるから僕はいい。」と言ったため、保育者は、「そうなんだね、見ていてもいいよ。」と言う。</p> <p>保育者のそばにいて砂山が大きくなっていく様子を見たA児は、「先生、ト</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 砂場で遊ぶのは楽しそうだな</p> <p><input type="checkbox"/> トンネルを作ったら面白そうだな</p>	<p><input type="radio"/> A児も汚れたり濡れたりすることを気にせず思い切り遊んでほしい。</p> <p><input type="radio"/> 友達の楽しそうな様子を見ているうちに、砂遊びに取り組んでほしい。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 援助① 受け止める ・ 気持ちを受け止める</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 援助① 見守る ・ 関わりながら見守る</p> <p><input type="radio"/> A児も砂遊びに参加するきっかけにしたい。</p>

<p>ンネル作って。」と言う。          保育者が「いいよ。でも、Aくんの力も必要だな。」と言うが、「僕は見ている。」と言って保育者に寄り掛かりながら見ている。【②】</p> <p>他児がシャベルを使ってトンネルを掘り始め、「(届くまで)もう少しかな?」と言っている。</p> <p>他児がシャベルを置いて場を離れた時に、保育者が「ほら、Aくんもこのシャベルで掘ってみようよ。もう少しでつながるみたい。」と言うと、最初は困ったような表情をしていたが、自分でシャベルを手に取り、しゃがんで掘り始める。【③】</p> <p>A児は、指先でシャベルを持っていたが、だんだんと持つ手に力が入り、最後はしっかりと握って砂を掘る。保育者が「あともう少し。」と言うと、さらに掘り続けた。トンネルが貫通し、一緒に掘っていた他児と手と手が触れ合うことを確認する。【④】</p> <p>保育者が、「手に砂がついても大丈夫だったね。」と言うと、A児は「うん。」とうなずく。【⑤】</p>	<p>砂が手に付くのは嫌だな</p> <p>自分にはできない</p> <p>シャベルで掘るなら、やってみようかな</p> <p>手に砂が付いても大丈夫だった</p> <p>トンネルがつながって嬉しい</p> <p>砂場で遊んで楽しかった</p>	<p><b>援助①</b> 見守る          ・ 関わりながら見守る</p> <p><b>援助①</b> 見守る          ・ 援助した後の姿を見守る</p> <p>○ 素手で触ることは難しくても、道具を使えば砂に触れるのではないか。</p> <p><b>援助①</b> 示す          ・ 具体的な解決方法を知らせる</p> <p>○ A児には砂で遊んで楽しかったという思いを味わってほしい。</p> <p><b>援助①</b> 励ます          ・ 取組を応援する</p> <p><b>援助②</b> 振り返る          ・ 困難を乗り越えた気持ちに共感する          ・ 自分の力で乗り越えたことを認める</p>
--	--	---

【保育者の援助についての分析】

- ・ A児が砂場での遊びに興味をもっているため、保育者は誘いかけたが、A児は手が汚れることに戸惑いがあったため、その気持ちを保育者が受け止めた。【①】
- ・ A児の思いを受け止めつつも、遊び始めるきっかけとなるように、保育者は働き掛けた。しかし、無理強いせず、A児が自分でやってみようという気持ちになるまで見守った。【②】
- ・ 保育者がA児の様子を見守りながら、A児に対して、砂遊びに取り組むきっかけとなるように具体的な方法を示し、砂は汚れるから触れないというA児の凝り固まった考え方をほぐすような関わりをしていった。【③】
- ・ 保育者は、幼児がしっかりとシャベルを握って砂を掘る様子を見て、取組を励ます言葉を掛けた。【④】
- ・ A児の気持ちに共感を示すとともに、A児の気持ちを代弁し、自分の力で困難を乗り越えられたことを認めた。【⑤】



イ 2・3年保育 5歳児 6月中旬 「虹色プールの案内役を頑張りたい」

< B児の実態 >

- ・ 遊びや生活に意欲的であるものの、行動全般がゆっくりで、自分から思いを出すことが少ない。
- ・ 年長になり、見通しがもてたことに対して少しずつ自分から行動しようとする姿が見られるようになってきた。
- ・ 6月中旬、園行事のお店屋さんごっこで、五人組のグループの友達と一緒に「虹色プール」というウォータースライダーのイメージで遊び場を作った。そして、B児はグループの友達と園行事当日の役割を分担するために、受付役、案内役、接客役の担当を相談して決めた。
- ・ B児は、どの役をするか迷っていたが、友達と相談をする中で、自分で案内役を選んだ。

幼児及び保育者の姿	<input type="checkbox"/> 活動のきっかけとなる思いや願い <input checked="" type="checkbox"/> 活動を進めていく際の思いや願い	<input type="radio"/> 保育者の思いや願い <input checked="" type="checkbox"/> 援助
<p>当日、案内役になったB児は、すぐに受付の近くに立ちお客さんを待つ。しかし、来るお客さんには、受付の中の幼児が「いらっしゃいませ。」と言葉を掛けて関わっているため、お客さんはB児の前を通り過ぎてしまう。B児は立っているだけで、受付と遊び場のスタート位置との間をしばらく行き来している。【①】</p> <p>少しすると、B児は自分の胸元で手のひらを上に向けて小さく左右に動かす。保育者が「Bちゃん、丁寧に素敵だね。『どうぞ』とか『こちらです』とか言ってみるといいんじゃない?」と促すが、なかなか一言が出ない。</p> <p>保育者がモデルになって「こちらです、どうぞ。」とB児と同様に手振りを添えながら接客の援助をしたが、B児の言葉は出ず、そのまま小さな手振りだけの接客をする。【②】</p> <p>しばらくすると場が混んできて、お客さんが並ぶようになり、列に座って待っているお客さんを誰かがスタート位置に促すことが必要な状況になる。【③】</p> <p>変わらず小さく手を動かしていたB児だったが、小さい声で「あの…」と列の先頭で座っていた未就園の親子に声を掛ける。B児は「こちらへどうぞ。」と手振りを添えて親子を促す。親子はうれしそうにスタート位置に移動する。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 案内役を頑張りたい</p> <p><input type="checkbox"/> 何をしたらよいか分からない</p> <p><input type="checkbox"/> こうやって案内しようかな</p> <p><input type="checkbox"/> うまくいかない</p> <p><input type="checkbox"/> 声を掛けるのは勇気がいるな</p> <p><input type="checkbox"/> 混んできた、どうしよう、困ったな</p> <p><input type="checkbox"/> 声を掛けてみようかな</p>	<p><input type="radio"/> 意欲があるので、少し状況を見守ろう。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 援助① 見守る ・ 自分なりに取り組む様子を見守る</p> <p><input type="radio"/> 自分なりに考え出した解決策を認めたい。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 援助① 励ます ・ 取組を応援する</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 援助① 示す ・ 具体的な解決方法を知らせる</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 援助① 見守る ・ 援助した後の姿を見守る</p>

<p>保育者も「Bちゃん、いいね、いいね。」と声を掛ける。      その後は手振りが少し大きくなり、「こちらへどうぞ。」と順番にお客さんに言葉を掛けながら促す。その都度相手の顔をのぞき込み、丁寧に関わる姿が見られる。  <b>【④】</b></p> <p>活動が終わって全体で集まった際に、保育者は「Bちゃんは、案内係を頑張ったんだよね」と声を掛けた。すると、B児は嬉しそうに微笑む。      また、降園前、保護者に遊び場全体を見せる機会を作ったところ、B児は嬉しそうに保護者に説明し、明るい表情で降園する。  <b>【⑤】</b></p>	<p>声を掛けてよかった</p> <p>案内役が楽しい</p> <p>楽しかったことを伝えたい</p>	<p><b>援助①</b> 励ます      ・ 取組を応援する</p> <p><b>援助①</b> 見守る      ・ 援助した後の姿を見守る</p> <p>○ 自分の力で状況を変えられたことに自信をもってほしい。</p> <p><b>援助②</b> 振り返る      ・ 自分の力で乗り越えたことを認める</p>
--	---	--

**【保育者の援助についての分析】**

- ・ B児の意欲を受け止め、保育者がすぐに手助けするのではなく、自分なりに取り組む様子を見守った。**【①】**
- ・ 保育者は、B児の考えや工夫を受け止め、励ました。また、案内役の具体的な方法を保育者がモデルとなって示した。**【②】**
- ・ 保育者が具体的な方法を知らせた後は、B児が自分のペースで取り組めるように、保育者が見守る援助をした。**【③】**
- ・ B児自身が、案内役ができたという充実感や達成感を味わうことができるよう、保育者は取組を励まし、見守った。**【④】**
- ・ B児が自分で自身の成長が感じられるよう、自分なりに考えて努力した点を具体的に認めて、振り返ることができるようにした。**【⑤】**

**ウ 考察**

- ・ 保育者が幼児の思いを受け止めながら気持ちの揺れ動きを捉え、その場の状況に応じて援助をしたことで、幼児が抱いた思いや願いを実現することができた。また、保育者の援助は、**受け止める**、**見守る**、**示す**、**励ます**、**振り返る**の五つに分類できることが分かった。
- ・ 幼児が自分からやってみようと動き出すまで見守り、継続して関わるのが、幼児が保育者の援助を支えにその遊びを進める上での困難を乗り越えることにつながる。したがって、幼児が安心して思いを表すことができる保育者との信頼関係が重要であり、保育者には、幼児の心情やその変化を丁寧に読み取るための深い幼児理解が必要であると考えられる。
- ・ 活動の振り返りを通して、幼児が「困難な場面」に対してどのように取り組み、乗り越えたのかを改めて実感できるようにしたことで、今後同じような場面に会った際の解決の手掛かりや次への意欲をもつことができた。このため保育者が振り返りをおして、幼児自身の変容に気付かせたり自信をもたせたりすることが、その後の「前向きな

見通し」につながっていくと考えられる。

(2) 保育者の援助の整理

(1)の事例研究から保育者の援助は大きく五つに分類できることが分かった。さらに、3ページに挙げた事例を再度検討することで、幼児が思いや願いを実現していく過程で「困難な場面」に出会い、乗り越えていく際の保育者の援助と、幼児が思いや願いを実現していく過程で「困難な場面」に出会い、乗り越えた後の援助については、表1のように整理することができた。

表1 幼児が思いを実現していく過程で「困難な場面」を乗り越えていくための援助（援助①）と乗り越えた後の援助（援助②）

援助の分類		具体的な援助	
援助① 乗り越えていくための援助	A 受け止める	ア 気持ちを受け止める	
		イ 実現したい思いを受け止める	
	B 見守る	ア 関わりながら見守る	
		イ 自分なりに取り組む様子を見守る	
		ウ 援助した後の姿を見守る	
	C 示す	ア 困難の要因を明らかにする	
		イ 具体的な解決方法を知らせる	
		ウ モデルを示す	
		エ 他児の取組を示す	
	D 励ます	ア 取組を応援する	
		イ 諦めないように励ます	
	援助② 乗り越えた後の援助	E 振り返る	ア 困難を乗り越えた気持ちに共感する
			イ 自分の力で乗り越えたことを認める

IV 検証保育

以下の2点について実践し、検証した。

- 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程を積み重ねることが、自分で考えて行動する力につながることを明らかにする。
- 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程において、どのような保育者の援助が必要かどうかを明らかにする。

1 2年保育 4歳児 9月下旬 「ワニを作りたい」



(1) 製作場面における指導案


<p>&lt;製作に取り組む幼児の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>製作が好きで、作りたいもののイメージが明確にある。1学期はカニやセミ、ザリガニなどの生き物やキャラクターを実物に似た形で作ることを楽しんでいた。</li> <li>製作の過程でうまくいかないことがあると、保育者に助けを求めるが、イメージを言葉で表現できなかつたり、保育者に作業を任せて興味が他に移ったりする。</li> </ul> <p>&lt;保育者の願い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>思いや願いをもって遊びを進める中で、「困難な場面」に出会っても、保育者に頼るだけでなく自分の力でも作り上げようとし、思いや願いを実現する嬉しさや充実感などを感じてほしい。</li> </ul> <p>&lt;本時のねらい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分なりのイメージで製作を楽しみ、自分の力で作り上げる充実感を味わう。</li> </ul>						
幼児の活動のきっかけとなる思いや願い	活動を進めていく際の思いや願い	幼児が「困難な場面」を乗り越えていくための援助 援助①		「困難な場面」を乗り越えた後の幼児の心情	幼児が「困難な場面」を乗り越えた後の援助 援助②	
イメージしたものを作りたい	イメージに合った素材や材料が見つからない	Aア	作りたい気持ちを受け止める	欲しい素材や材料が見つかった	Eイ	素材や材料を工夫したことで、より本物らしくなったことを認める言葉を掛ける
		Aイ	どんなものを作りたいのか聞き、イメージを明らかにする			
		Cイ	作りたいもののイメージに合った素材を提示する			
	思い通りに切ったり貼ったりすることが難しい	Aイ	どのようにしたいのか聞き、イメージを明らかにする	思い通りに切ったり貼ったりすることができた	Eア	道具や素材をうまく扱いながら、自分のしたいことができた嬉しさに共感する
		Bイ	自分なりに取り組む姿を見守る			
		Bウ	素材を提示したり、作り方を伝えたりした後の姿を見守る			
		Cイ	どのようにしたらできるか道具や素材の扱い方のコツを伝える			
		Cイ	保育者が素材を押さえるなど、必要な手助けをする			
Dア	自分なりに切ったり貼ったりしようとしている姿を励ます					

(2) 当日の保育におけるC児の記録と分析

<C児の実態>

C児は製作が好きで、作りたいもののイメージが明確にあるが、製作の過程でうまくいかないことがあると保育者を頼ったり、作業を任せて興味が他に移ったりすることがある。

<p>幼児及び保育者の姿</p>	<p><input type="checkbox"/> 活動のきっかけとなる思いや願い</p> <p><input type="checkbox"/> 活動を進めていく際の思いや願い</p>	<p><input type="radio"/> 保育者の思いや願い</p> <p><input type="checkbox"/> 援助</p>
<p>C児は、前日に保育者が提示した空き箱を使ったワニ作りを始める。自分で見本を見ながら進めていくが、脚の部分になり、紙を持ってきたものの、同じ形が作れないことに困った様子である。</p> <p>するとC児は保育者のところへ行き、「同じ形の脚を作りたい。」と言う。</p> <p>保育者は、見本を見せながら「脚はこのくらい？」とC児に大きさを確認する。【①】</p> <p>C児が了解したので、保育者は小さめの画用紙に、切ると短冊状になるように鉛筆で線を描く。【②】</p>  <p>C児は、一本切って、見本のようにL字型に曲がっていないことに気付き、不安そうに「どうしよう、こうなっちゃった。」とつぶやく。保育者は、「切れたね。大丈夫だよ。」と言って、二本の短冊状の画用紙をL字型になるように置いて見せる。【③】</p>  <p>C児は保育者に線のとおり切れていることを認められると安心し、納得して二本の短冊状の画用紙をテープで貼り合わせる。</p> <p>右の後ろ脚ができたところで、胴体に貼り付けようと、見本を隣に持ってきて、角度をいろいろと変えながらどこに貼ろうか考える。</p> <p>見本と同じ角度が分かり、貼り付けてから、残りの脚も作る。</p> <p>前脚を貼ろうとするが、先に貼った後ろ脚が胴体の真ん中あたりだったため、前脚と重なる。そのことを気にして貼れず迷っていたので、保育者が、「前脚を短く切るか、後ろ脚を下の方に下げるといいよ。」と提案をする。【④】</p> <p>C児は前脚を切り、さらに後ろ脚の位置を下に下げて、四本の脚をバランスよく貼る。</p> <p>片付けの時間が過ぎていたが、保育者はC児が完成まで取り組めるように見守り、頑張っ</p>	<p>空き箱で見本と同じワニを作りたい</p> <p>ワニの脚を作りたい</p> <p>曲がった脚の作り方が分からない</p> <p>脚を先生と同じ場所に付けたい</p> <p>どこに貼ったらよいか迷う</p> <p>前脚と後ろ脚が重ならずできた</p>	<p><input type="radio"/> 自分の力で製作を進めてほしい。</p> <p>援助① A 受け止める ア 気持ちを受け止める</p> <p>援助① A 受け止める イ 実現したい思いを受け止める</p> <p>援助① C 示す イ 具体的な解決方法を知らせる</p> <p><input type="radio"/> どのように取り組むか見守ろう。</p> <p>援助① B 見守る ウ 援助した後の姿を見守る</p> <p>援助① D 励ます ア 取組を応援する</p> <p><input type="radio"/> 自分で次の作業に進めるように手助けをしよう。</p> <p>援助① C 示す イ 具体的な解決方法を知らせる</p> <p><input type="radio"/> 自分なりに考えている姿を見守ろう。</p> <p>援助① B 見守る イ 自分なりに取り組む様子を見守る</p> <p>援助① C 示す イ 具体的な解決方法を知らせる</p> <p><input type="radio"/> 最後まで作り上げる嬉しさや満足感を感じてほしい。</p>

<p>取り組んでいたことを認めると、C児は笑顔を見せた。【⑤】</p>	<p>ワニが完成して嬉しい</p> 	<p>援助① B 見守る ウ 援助した後の姿を見守る</p> <p>援助② E 振り返る ア 困難を乗り越えた気持ちに共感する イ 自分の力で乗り越えたことを認める</p>
-------------------------------------	--	--

<保育者の援助についての分析>

- ・ C児が製作に具体的なイメージをもっていることから、保育者は活動の中でその都度イメージを確認しながら援助した。画用紙に線を描くような具体的な手助けをしたり、二通りの解決策を提案したりするなど、C児ができるだけ自分の力で取り組めるように援助した。【①②④】
- ・ C児が取組に不安を感じたり、イメージ通りにならずに困ったりしているときに、保育者はC児が安心できるような言葉や、取組を後押しする言葉を掛けて、C児が活動を継続できるようにした。【③⑤】
- ・ C児の思いや願いを実現できるように、保育者は完成までの時間を保証し、作り上げる達成感が味わえるようにした。【⑤】

(3) 考察

- ・ 保育者は、幼児が自分なりに取り組む様子を温かく見守ったり、できたことに共感し認めたりすることで、幼児は安心感をもち、諦めずに活動を続けることができる。最後までできたという充実感や達成感は幼児の自信となり、今後、自分で考えて行動しようとする力につながると考える。幼児の意欲が継続し、取組を進めていくことができるよう、保育者が幼児の心情を読み取りながら適切な援助をすることが重要である。
- ・ 4歳児になると、遊びのイメージが具体的になり、自分なりに取り組む姿が見られるようになる。一方で、うまくできないと不安になったり、すぐに諦めたりすることもある。保育者は、幼児が自分自身で乗り越えられる程度の困難かどうかを見極め、具体的な手助けをしたり、手だてを知らせて工夫を促したりし、幼児が自分の力でイメージを実現できたと感じられるように援助していくことが大切である。
- ・ 発達段階に合わせて道具や素材を用意することで、幼児は自分なりに考えて道具や素材を選択したり組み合わせたりしながら、思いの実現に向けて取り組んでいく。様々な素材や道具を扱い、多様な技法を知ることは、次なるイメージの実現に向けて「困難な場面」に出会ったときに、自分で解決する方法を考えたり選んだりすることにつながると考えられる。
- ・ 保育者は幼児が「困難な場面」を乗り越えられるように、そのときの幼児の姿からどのような援助を行うか見極め、「前向きな見通し」をもつ過程の経験を積み重ねられることが大切である。

2 2・3年保育 5歳児 10月下旬 「苦手だけど頑張ってみようかな」

(1) 当番活動における指導案

<p>&lt;当番活動に取り組む幼児の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当番活動に興味や関心はあるが、内容によっては、取組に消極的な気持ちが見られる幼児がいる。</li> <li>それぞれの当番の役割であることを分かっている幼児が多く、保育者が手順を示さなくても当番活動を進められるようになってきている。</li> </ul> <p>&lt;保育者の願い&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「困難な場面」に出会っても、自分なりに参加の仕方を考えたり、自分にできることを見付けたりしながら取り組み、自分でできることに自信を感じてほしい。</li> </ul> <p>&lt;本時のねらい&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グループで取り組む当番活動の中で、自分にできることを見付けて、最後まで取り組むことができた達成感を味わう。</li> </ul>						
<p>幼児の活動のきつかけとなる思いや願い</p>	<p>活動を進めていく際の思いや願い</p>	<p>幼児が「困難な場面」を乗り越えていくための援助 援助①</p>		<p>「困難な場面」を乗り越えた後の幼児の心情</p>		
<p>当番活動をしたい</p>	<p>参加のタイミングがつかめない</p>	Aイ	自分の役割を見付けて当番活動を進めたい気持ちを受け止める	<p>自分なりに当番活動に向き合い、役割を果たすことができた</p>	<p>Eア</p> <p>困難を乗り越えた過程を自分自身で振り返られるような言葉を掛け、共感する</p>	
		Aア	一度諦めようとする気持ちを肯定的に受け止める			
		Bイ	自分なりに取り組もうとする姿を見守る			
		Cイ	どんなことを困難に感じているのか聞く			
	<p>苦手な活動がある</p>	Cエ	他児の取り組む姿に気付かせる		Eイ	自分なりに解決方法を考え、乗り越えようとしたことを認める
		Dア	当番活動に意欲をもてるような言葉を掛ける		<p>Eイ</p> <p>自分の変容に気付かせる</p>	
		Dイ	最後までできるように言葉を掛ける			

(2) 当日の保育におけるD児の記録と分析

<D児の実態>

- 得意なことには積極的に取り組むが、人前ですることや初めての活動などに慎重さや抵抗感を示すことが多い。
- 当番活動に興味や関心はあるが、内容によっては、取組に消極的な気持ちが見られる。

<p>幼児及び保育者の姿</p>	<p><input type="checkbox"/>活動のきっかけとなる思いや願い <input type="checkbox"/>活動を進めていく際の思いや願い</p>	<p><input type="radio"/> 保育者の思いや願い <input type="checkbox"/> 援助</p>
<p>雨天のため、モルモットの世話を室内で行うことになり、D児は同じグループの三人と、ゲージのそばに来る。D児はモルモットをしばらく眺め、「かわいい。」と言ってモルモットを指先でなでる。他児も様子を見ているだけで、なかなか当番が始まらない。</p> <p>保育者が「そろそろ始める？Dちゃんはどんなことならできそう？抱っこは？」と聞くとD児は「怖い。」と言う。保育者は「餌を入れるのは？」と聞くが、首を横に振る。【①】</p> <p>まずはモルモットを別の箱に動かすよう保育者が促すと、他の2人も抱っこできないと答える。D児は「E君に（モルモットを）抱っこしてもらおう。」と、生き物に触れることが得意な友達を頼ろうとするが、他児が「今日はE君お休みだよ。」という声を聞き、一瞬うつむく。その様子を受け、保育者が「一緒に抱っこしようか。」と言うと、「爪が怖い。」とD児が言う。そこで、保育者は「そうだったんだね。」と受け止め、モルモットの移動は保育者がすることにし、世話の続きを投げ掛ける。</p> <p>【②】</p> <p>すると、すぐに他児は、すのこを外して掃除したり、ごみ箱を持ってきたりするなど、できることを見付けて世話を始める。保育者は「自分でできることを見付けて世話を始められて、さすがだね。」と他児の様子に声を掛ける。</p> <p>【③】</p> <p>D児は様子を見ているため、「Dちゃんはどうする？」と聞く。すると「何をすればいいかわからない。」とD児は言う。「ほうきでゲージの中をはく？」と提示するとD児は「うん。」と言って、始める。</p> <p>D児は保育者と世話しながら、「動物、ちょっと苦手なの。」「においが嫌なの。」などと言う。また、D児は「ネコなら大丈夫。かわいいし、ふわふわしているし。」と言うので、「モルモットもフワフワしていてかわいいよ。」と言うと、「ちょっとザラザラしている（から苦手）。」と言う。保育者は「そうだったんだね、</p>	<p>グループの仲間と一緒にモルモットの世話をしたい</p> <p>モルモットはかわいいけれど、抱っこは怖くてできない</p> <p>E君がお休みで頼ることができない、困ったな</p> <p>友達が世話をしてくれているな</p> <p>何をすればいいかわからないな</p> <p>先生と一緒にやってみようかな</p> <p>モルモットが苦手な気持ちを打ち明けよう</p>	<p><input type="radio"/> 意欲があるので、動き出すまで少し状況を見守ろう。</p> <p>援助① A 受け止める イ 自分の役割を見付けて当番活動を進めたい気持ちを受け止める</p> <p>援助① A 受け止める ア 不安な気持ちを受け止める</p> <p><input type="radio"/> いつもと違う状況に困難を感じているようなので、向き合おうとする姿を見守ろう。</p> <p>援助① B 見守る イ 自分なりに取り組む様子を見守る</p> <p><input type="radio"/> 幼児だけでは解決できなさそうなので、手を貸そう。</p> <p>援助① C 示す イ 難しいところを手伝う</p> <p><input type="radio"/> D児は、他児が始めた姿に刺激を受けて、自分なりに世話を始めるかもしれない。</p> <p>援助① C 示す エ 他児の取組に気付かせる</p> <p>援助① C 示す イ 手順や方法を具体的に示す</p> <p><input type="radio"/> 自分の気持ちを言い出したことを受け止めよう。</p> <p>援助① A 受け止める ア 苦手な気持ちを受け止める</p>



<p>Dちゃんがモルモットを苦手だったこと、知ってたよ。でも、苦手だけど頑張る人、素敵です。」と言う。【④】</p> <p>一通り世話を終えた様子に「他にできることはありませんか？」と保育者が確認を促す。D児は他児とすのこをゲージにセットしたり、床に落ちた牧草を拾い集めたりする。</p> <p>「においが嫌だったけれど、頑張ってきたね。最後までやってみて、どうだった？」と聞くと、D児は「すっきりした。」と言う。「よかったね、モルモットもきっとDちゃんにお世話してもらって、嬉しい気持ちだね。」と保育者も言う。</p>	<p>励まされて嬉しいな</p> <p>他にできることはないか確認しよう</p> <p>最後までできて嬉しいな、頑張った</p> <p>グループの仲間と一緒に世話をすることができた</p>	<p><b>援助①</b> D 励ます  ア 取組を応援する  イ 最後までできるように言葉を掛ける</p> <p>○ 今度は自分から動き出したD児の姿を受け止めよう。</p> <p>○ 自分でできたことを認めることで自信をもってほしい。</p> <p><b>援助②</b> E 振り返る  ア 困難を乗り越えた気持ちに共感する  イ 自分の力で乗り越えたことを認める</p>
--	--	--

<保育者の援助についての分析>

- ・ 当番活動に意欲があるものの、どのように取り組めばいいか分からずに困っているD児の姿から、保育者は困難の度合いを見極め、手助けしたり、具体的に方法を提示したりするようにした。【①②】
- ・ 保育者は、D児がグループの仲間と一緒に当番ができた嬉しさを感じられるように、他児の取組を知らせながら最後まで活動を進められるように励ました。その中で、D児が自分のできることを考えて取り組めるように促した。【③】
- ・ 保育者は、D児がモルモットに対して苦手な気持ちを言葉にしたことを肯定的に受け止めたり、「困難な場面」を乗り越えた後の気持ちを感じられるように振り返る機会をもたせたりするなど、自分の気持ちに自分自身で向き合っている姿を大切にした。【②④】

(3) 考察

- ・ 幼児が困難を乗り越えた姿を、保育者が具体的に認めたり、振り返らせたりする機会を設けることで、幼児が自分自身の変容に気付いたり、自信をもったりし、次の活動への意欲につながると考える。こうした「前向きな見通し」がもてるよう、幼児が困難を乗り越えた後の振り返りの援助の工夫をし、幼児に自分で考えて行動する力を育むことが大切である。
- ・ 5歳児になると、生活や遊びに目的をもって進めるようになり、実現に向けた「困難な場面」は何かを、幼児自身が把握している場合もある。幼児が困難に感じていることを言葉などで表せるように促すことで、幼児自身が要因を自覚し、自分なりにどうすればよいか考える姿につながる。また、困難の要因が明確になることで、保育者は適切な援助を見極めることができると考える。
- ・ 友達の姿を「困難な場面」を解決するためのモデルとしたり、友達が自分と同じような困難を感じながらも取り組もうとしていることに気付いたりすることがある。保育者は他児の取組を示したり、発信したりしながら、幼児自身で解決に向かって活動を進められるようにしていく援助が重要である。

## V 研究の成果

### 1 幼児が「前向きな見通し」をもつ過程の可視化

幼児が「前向きな見通し」をもつ過程を積み重ねることが、自分で考えて行動する力につながることのイメージを、図1のようにまとめることで、日々の保育で保育者が感覚的にやっている幼児の心情の変化の読み取りや援助が可視化された。

検証保育をとおして、図1で示したような一連の過程の中で幼児が「前向きな見通し」をもち、それらを積み重ねることは、幼児に自分で考えて行動する力が培われることにつながっていると分かった。

### 2 幼児が「前向きな見通し」をもつための二段階の保育者の援助

幼児が「前向きな見通し」をもつための保育者の援助には、表1のように幼児が思いを実現していくための援助と、幼児が思いを実現した後の援助の二段階があることを整理した。

援助①において、保育者は、幼児がすでに経験して身に付けている内容や、本人の取組に対する意欲を把握し、活動に確保できる時間などを考慮して援助することが必要である。また、年齢ごとに分断した画一的な援助を考えるのではなく、幼児の発達段階や経験内容に応じて、幼児がそのときに経験すべき困難なのかどうかを見極め、幼児に必要な経験が積み重ねられるように配慮することが重要である。

援助②においては、保育者が幼児の思いや願いを実現するまでの過程を振り返る機会をつくることで、幼児が自分自身の成長や変容に気づき、自覚することができる。また、幼児が充実感や達成感、遊びの楽しさや自信を味わい、「前向きな見通し」をもてるようにするために、保育者が幼児の取組を具体的な言葉や動きで認めていくことが重要である。

このような、経験を繰り返し積み重ねることで、幼児はやりたかったことが自分にとって少し難しいと感じても取り組もうとしたり、その後の自分の変容に期待感をもったりすることができる。つまり、「前向きな見通し」をもつ経験を繰り返し積み重ねることで、幼児の感じる充実感や達成感、遊びの楽しさや自信はより確かなものとなり、それらが、幼児の自分で考えて行動する力につながる。また、この力は幼児期だけでなく、小学校以降の生活や学びに向かう力にもつながっていくと考えられる。

したがって、保育者は、幼児の言動を具体的に認めたり振り返ったりする援助の重要性を理解し、幼児の発達に合わせて援助の方法を工夫していくことが大切である。

## VI 今後の課題

- ・ 今回整理した保育者の援助の表1の汎用性を証明するために、様々な時期や年齢、遊びや活動の場面で検証していく必要がある。
- ・ 図1で示したような保育者の援助を受けながら、幼児が困難な場面を乗り越え、「前向きな見通し」をもつ過程を積み重ね、自分で考えて行動する力が小学校以降の生活や学びに、どのようにつながるかを検証していきたい。

平成 31 年度(2019 年度) 教育研究員名簿

幼 稚 園

学 校 名	職 名	氏 名
港 区 立 芝 浦 幼 稚 園	主任教諭	高 田 清 香
文 京 区 立 明 化 幼 稚 園	主任教諭	中 山 利 広
品 川 区 立 第 一 日 野 幼 稚 園	教 諭	◎小 杉 亜 希
北 区 立 さ く ら だ こ ど も 園	主任教諭	山 田 陽 子
日 野 市 立 第 五 幼 稚 園	教 諭	堺 彩 菜

◎ 世話人

[担当] 東京都教育庁指導部義務教育指導課  
指導主事 山下 陽子

平成 31 年度(2019 年度)  
教育研究員研究報告書  
幼稚園

令和 2 年 3 月

編 集 東京都教育庁指導部指導企画課  
所 在 地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849